

会議概要

【開催概要】

名称 2015年度 第2回新潟市政策改革本部会議
日時 2015年9月29日(火) 午後2時50分から
会場 白山会館 2階 大平明浄の間
出席者 本部長(市長)、副本部長(副市長)、本部員(庁議構成員など)

【会議概要】

利用者起点に立った公共施設のあり方プロジェクトの報告

(1) プロジェクト総論

- ・市民が公共施設を快適に利用できるように、対象を複合施設から単独施設を含む公共施設全体に拡大し、3つの視点から「公共施設のあり方」を検討する。
 - ①公共施設の点検 (サービス改善、子ども対応、施設予約の改善)
 - ②子ども施設の質の向上
 - ③図書室の有効活用
- ・「公共施設のサービスの必要条件(利用しやすさ)」と「公共施設のサービスの十分条件(機能の充実)」の2つの領域でプロジェクトを推進する。
- ・なお、施設の「利用しやすさ」に加え、子ども施設と図書室においては「機能の充実」にも踏み込む。

(2) 各テーマの報告

(公共施設の点検－施設予約の改善)

- ・市民は「飲食店予約」、「宿泊予約」などのサイトに慣れており、民間でできているサービスを公共施設でも市民から求められる時代となっている。
- ・新潟市内の民間貸会議室は、予約手続きについて来所の必要がない。
- ・一方、公共施設では、施設予約方法は、施設の種類によって偏りがあり、施設窓口に行かなければ申請(予約)ができない施設が1/4ほど存在する
- ・利用手続きが「施設窓口のみ」の施設について、調査で判明した課題は解決可能であり速やかな改善が望まれる。
 - ①「電話・(FAX)」による施設予約を年度内で全ての施設で可能とする
 - ②公共施設予約システムで施設予約できる施設の拡大を図る
 - －同一施設において二つの機能をもつ施設で、一方の機能では既に公共施設予

約システムを導入している施設（例）中央公民館とクロスパルにいがた
ー既に公共施設予約システムで空室情報を公開している施設

- ・併せて、窓口や電話で問い合わせなくても、施設予約に必要な十分な情報が掲載されているように、ホームページの充実が必要となってくる。
- ・IT推進課はm-ガバメントの推進の一環として、平成27年度中に新潟市公共施設予約システムのスマートフォン版を公開予定。

（子ども施設の質の向上）

- ・本市の将来を担う子どもたちの健やかな成長のために、「子育て（親起点）」及び「子育て（子ども起点）」の切り口から公共施設のあり方を検討していく。
- ・具体的な手法として、子どもが最も多く利用し、高いサービスが期待されている「児童館と子どもの遊び場（17施設）」及び「子育て支援センター（44施設）」を対象に、個別施設で起きている問題点を把握し、改善を図っていく。
- ・予備調査で集めた各施設における利用者の不満や苦情に関する情報は、一部の施設に限定されており、また、どのように改善すべきか具体的なヒントとなるような意見も少ない。
- ・プロジェクトを進めるにあたり、その前段として、副市長をリーダー、対象子ども施設の所管課長をメンバーとする準備チームを9月25日に立ち上げた。
- ・今後、準備チームでは、全子ども施設において利用者へインタビューを行い、施設の改善を図るための具体的なヒントとなる利用者意見を集約する。

（図書室の有効活用）

- ・「図書館のサービス検証（2013都市政策研究所）」で提言された30の課題のうち、図書館だけでは解決が難しく、区を巻き込んだ議論が必要な課題である「図書室の有効活用」について今年度本部で取り組んでいく。
- ・図書館機能は、地域づくりに戦略的に活用できることから、地域における図書館機能の新たな活用法について検討していく。
- ・市内には、19の図書館と25の図書室が設置されている。
- ・図書室の設置数は、図書館の設置数を上回るが、その規模は非常に小さく、「有効に活用されているか」という点について疑問がある。
- ・このため、「非効率」という視点から、新潟市事業仕分けで対象となるなど、これまで「再編」について各種の議論がなされてきた。
- ・そこで、図書室を今よりもっと有効活用するため、本部では、図書室の閉鎖や縮小という視点ではなく、各地区のどのような場所にどのような図書機能を設置すべきかについて、地域戦略の観点から考えていく。

2015年度プロジェクトの進捗

「利用者起点に立った公共施設のあり方」プロジェクトも「超高齢化時代に向けた医療・介護連携と市役所役割」プロジェクトも、概ね順調に進んでいる。